

11月11日～12月12日
電池月間



でんち

平成13年10月1日

BATTERY ASSOCIATION OF JAPAN

社団法人 電池工業会

BATTERY ASSOCIATION OF JAPAN

〒105-0011 東京都港区芝公園3丁目5-8
機械振興会館内

電話 (03) 3434-0261 (代)
E-mail. bajapan@hi-ho.ne.jp
ホームページ <http://www.baj.or.jp/>
振替口座 東京8-91022
発行人 木村侃丘
定価1部郵送による年決め2,400円

平成13年度 正賛合同会議開催

平成13年度正賛合同会議が9月14日、正会員15社、賛助会員41社、参加者合計88名の出席のもと、静岡県浜松市のグランドホテル浜松にて盛大に行われた。

会議では、緊迫した経済環境の中で、電池業界の置かれている厳しい状況下、より一層の会員相互の協調が必要であることを確認した。

- 冒頭に電池工業会安田会長より挨拶があった。
- 最近の経済環境は非常にきびしく、電池業界も過去に経験したことのない厳しい状況で、昨年下期から急激に市況が悪化し、特に今年の4月～6月の業界全出荷金額は前年比でそれぞれ70%となり、7月単月でやっと83%になったが、4～7月累計でトータル79%、1次電池83%、2次電池78%、中でも成長を支えてきたリチウムイオン電池は77%と極めて厳しい結果であった。
- 最近ではIT関連のデバイスとしての需要が高く、まさにIT不況のあおりをまともに受けているのが、今的小形二次電池の業界である。
- 電池業界は過去に経験したことのない、未曾有の厳しい環境下にあるが、電池の事業は間違いなく夢のある事業であり、業界として切磋琢磨し、協調し、国際競争力を高め、日本の電池業界の発展に寄与したい。

- 木村専務理事から、平成13年度 電池工業会活動方針が発表され、特に環境保全、再資源化、広報活動について説明があった。
- 環境保全、再資源化に関し、循環型社会構築へ



向け「改正リサイクル法」の施行により指定再資源化の対象製品として小形二次電池4品種、指定再資源化事業者として電池メーカー、機器メーカーがそれぞれ指定され、電池工業会の中に小形二次電池再資源化推進センターが設立され、リサイクル会員に電池メーカー、機器メーカー合わせて107社が加入し、6月21日に設立総会を開催し、運営委員18社の承認を受けた。

- 電池や電池器具の普及と広報活動では「電池の正しい使い方、処理の仕方」を基本にPRを行い、1次電池では「手作り乾電池教室」全国13ヶ所、地方テレビ局で「電池の正しい使い方」、小形二次電池では「リサイクル協力店くらぶ」3万店突破、回収実績向上で「北欧オーロラの旅」招待のキャンペーン実施中、広報総合では「シーテックジャパン」10/2～6幕張メッセ、「ウエステック2001」11/27～30、幕張メッセ、電池月間の行事として「でんちフェスタ」11/10サンシャインシティ、「プロ野球最優秀バッテリー賞表彰式」11/29東京プリンスホテル、

更にホームページ、広報誌「でんち」の内容充実を図る等の紹介があった。

◎電池及び電池器具の出荷金額については、本年1~6月の実績について全電池で前年比83%、電池器具で同98%であった。特に小形二次電池は、同77%と過去に経験した事のない実績であり、IT関連の影響がもろに来た旨の説明があった。

今回の合同会議における講演は、プロ野球解説者で、プロ野球最優秀バッテリー賞の選考委員の豊

田泰光氏に「勝利の条件…チームは勝つために何をすべきか」と題して1時間30分に渡り有意義な講演をいただいた。

以上、会長並びに専務理事の挨拶、豊田氏の講演を通じ参加者一同は当面の重要課題について更深なる理解を深め、電池業界の発展には、正会員と賛助会員両者の協調と情報交換が必要である事を再認識し、会議は成功裡に終了した。

平成13年度 第2回小形二次電池部会開催

平成13年9月6日、機械振興会館において、平成13年度第2回小形二次電池部会（出席者23名）が開催された。

事務局から経済産業省の動きとして、「品目別リサイクル・ガイドラインの改訂」政策課題対応のワーキンググループを設けたことと、「拡大生産者責任の考え方徹底」等を報告し、また、海外電池工業会（欧州、中国、韓国）との協調について活動報告を行った。今回の部会においては、主要5委員会の活動報告と、再資源化積立金に関する審議が行われ承認された。

1. 盛岡部会長の挨拶

業界は前年比割れで大変厳しい状況だが、需要が徐々に動き始めたようであり、今しばらくの辛抱である。また、再資源化推進センターの運営には、まだサポートが必要なので、引き続き協力願う。

2. 木村専務理事の挨拶

7月度の全電池出荷金額は前年比82.6%、5月度出荷金額500億円に対し7月度は600億円を超えており、底を出た模様と思われる。リチウムイオン電池は、4月75.2%、5月73.9%、6月78.0%、7月79.6%と回復の兆しあり。また、海外の携帯電話在庫が掃けている話もあり、今後の動向に注視する必要あり。

3. 委員会活動報告

1) 業務委員会

2001年度第1四半期の実績は、数量と金額に関し前年比で、ニカド74%の72%、ニッケル水素58%の61%、リチウムイオン84%の76%、小形シール鉛76%の67%であった。今後の需要予測見直しを図る要望があった。

2) 技術委員会

IEC国際規格として10種の課題を紹介。またニカド電池の統合（円筒、角、ボタン）作業のプロジェクト・リダーに日本から候補を出したいとの意向が了承された。9月にIEC-SC21Aの会議を、日本で開催予定。

3) 国連対応委員会

国連勧告の法制化検討に対する日本提案に関し、国土交通省や全日本航空事業連合会等の協力体制で進めている状況を報告。

4) 広報委員会

リサイクルキャンペーンの展開、マスコミ対応、電話調査等の状況報告と、協力店くらぶ拠点整備について報告があった。8月末の会員数30,819点。

5) 再資源化委員会

再資源化推進センターの支援活動を展開、一方、産構審リサイクル・ガイドラインの改訂内容4点（退蔵、拠点、ルート体制、識別表示）について、方向付けが必要との報告があった。

4. 再資源化積立金に関する審議

既に書面でお願いしている積立金の50%返却、50%据置の件について、木村専務理事から提案説明があり、審議の結果承認された。

国際電気標準会議(IEC)・湘南で開催

IEC/SC21A-WG1,2,3,4およびIEC/TC35/SC21A-JWG12国際WG

9月24日から28日の5日間、神奈川県逗子の湘南国際村センターにおいて、IEC(国際電気標準会議)SC21A(二次電池)のWG1、WG2、WG3、WG4と、TC35(一次電池)との合同WGであるJWG12の国際会議が開催された。米国で発生した同時多発テロの直後で、米国メンバー他の直前不参加通知もあったが、期間中7ヶ国、延べ75名の委員参加で活発な審議が行われた。

今回の標準会議WGでは

- WG1 「密閉式アルカリ蓄電池」「開放型アルカリ蓄電池」「部分ガス吸収式アルカリ蓄電池」の各委員会原案に対する各国コメントの審議。
- WG2 「Ni-Cd電池、Ni-MH電池、リチウム二次電池」の組電池ガイド作成審議
- WG3 「ポータブル機器用リチウム二次電池規格」「新リチウム二次電池規格」の委員会原案に対する各国コメントの審議。
- WG4 「アルカリ蓄電池の統合安全規格」「アルカリ蓄電池の統合機械試験」の委員会原案に対する各国コメントおよび、IEC/ACOS(安全性専門委員会)のMr.C.Chapman氏のコメントとともに審議。



- JWG12「リチウム電池輸送時の安全性規格」の規格原案に対する各国コメントの審議などが集中的に行われた。

また9月26日(水)夕刻からは「ウェルカム・パーティー」が開催され、(社)電池工業会・木村専務理事から、歓迎の挨拶と共に「国際電気規格の迅速な標準化の重要性」について所感を述べた。

返礼挨拶としてSC21AのC.P.Albon議長およびP.Fouaere幹事のスピーチの後、各國委員が会食し懇親を深めた。また、横須賀国際交流協会のボランティア5名による琴と尺八の演奏は海外メンバーの多いなる関心を集め、盛況な会場となった。次回は2002年3月中旬に米国・ワシントンでSC21Aの会議開催が予定された。

蓄電池設備整備資格者

講習修了考查合格者

愛知会場分

電池工業会は、8月29日30日愛知県で開催した、蓄電池設備整備資格者講習の修了考查に合格した者の氏名を発表した。合格者(合格率)は、100名(77.5%)、であり。合格通知は直接本人に通知される。

<愛知県>

仙石茂広、青木高広、今村陽三、小野一布、安藤 博、浅野正幹、小嶋政和、安井浩之、近藤光郎、新谷高秀、若山幸之助、辻岡芳文、青木 忠、大津雅弘、桂山浩次、榎間守之、刑部雄二、丹羽光男、金井伸尚、堀江 博、西尾聖治、石井千加、長坂秀幸、佐野英雄、植田博明、渋谷洋一郎、小阪秋生、井澤 基、村上博昭、丹羽真彦、安藤俊之、麻生重雄、荒井秀夫、横町浩通、松岡 登、今井民夫、大野三喜夫、高橋 博、糸井淳児、山口正人、長谷川喜一、浅井正紀、杉浦正朗、高橋 健、北野文健、永井武志、嘉福雄介、阪本一弘、奥田正行、

柳澤孝嗣、新城 徹、大園博正、藤沢俊樹、齋藤伸司、中村隆安、市川四郎、吉田清治、森山英樹、磯部正吾、鍋島心一、桑山文輔、玉井幸成、石本幸人、長坂俊秋、小林弘樹、増田好彦、坂上喜夫、小村光昭、藤田政良、永田明生、竹内 弘、石原忠勝、兼松 宏、大橋克彦、松下友彦、川口次男、萱沼巨也、大木正美、長倉正典、瀧川且康、藤田典久、植木大助、向井誠裕、安藤勝美、松井正喜、浅野守生、藤木 仁、木多聰行、蓮池康栄、深津孝行、中川善紀、深尾弘明、佐橋 登、福澤弘剛、田邊浩二、澤口 剛、佐々木勝己、杉村正俊、稻垣嘉人、大澤記信。

業界動向

*経済産業省 6月の機械統計速報からリチウムイオン電池の出荷が、前年同月比15.3%減と三ヶ月連続で大幅減となった旨を発表。生産調整局面を迎えている事が鮮明になる。

(8月1日付 化学工業日報)

*松下電池工業 業界初の水洗いができる乾電池式ごますり器を開発、10月10日から発売へ。

(8月2日付 日経産業)

*三菱電機 業界最大の822通りの配置パターンが可能で、施行にも優れた太陽光発電寄棟屋根用システムを10月21日から発売。

(8月2日付 電波)

*シャープ 今秋に米国で販売を始めるPDAについて、今年期初めに定めた方針を見直し景気の減速に対処、個人向けの投入は延期、業務用の販売を先行させる事を決定した。

(8月2日付 日刊工業)

*電動車いす 事故が急増しているが、原因是携帯無線などの電磁波による誤動作や、緊急停止用の手動ブレーキのない機種での暴走事故が挙げられる。

(8月2日付 朝日)

*日本写真機工業会 DSCの撮像性能指標として用いられる「画素数」について、9月1日に発売される製品から「有効画素数」を優先的に表示・表記するガイドラインを決定した。

(8月2日付 日刊工業)

*日本写真機工業会 2001年上期(1月~6月)のDSCの出荷が、前年同期比で48%増の590万台強になった旨を発表。(8月2日付 日刊工業&日経産業)

*経済産業省 太陽熱を給湯や冷暖房に利用する「太陽熱利用システム」に関し、一般家庭での購入を対象とした補助金制度を導入する方針を固めた。

(8月3日付 日刊工業)

*経済産業省 燃料電池車の燃料となる水素を供給するスタンドを首都圏に設置し、水素供給インフラの本格的な研究に乗り出す事を明らかにした。3年かけてコスト、安全性などを幅広い観点から最適な供給方式を実証する。

(8月4日付 電波)

*アラコ(トヨタ系) 荷台付の商用タイプの小型電気自動車を発売した。一回の充電の走行可能距離は約90キロメーターで宅配会社向け等がターゲット。

(8月6日付 日経産業)

*電源開発(特殊法人) 自家発電用の燃料電池の開発、販売に乗り出す。5年後を目処に新会社を設立、業務ビル、ホテル、病院等への売り込みを予定。

(8月5日付 朝日)

*携帯型防犯ブザー 囚犯事件の続發で需要が年間で150万台まで急拡大、当該ブザーの品不足が深刻化している。今後は、海外旅行者へのアプローチ強化により更なる需要が生まれる事が期待されている。

(8月6日付 電波)

*PDA 市場の拡大が期待されてきた本品の出荷台数が、今年4月~6月期は世界全体で前年同期比で微減の279万台になった模様、息切れの様相になる。

(8月7日付 日経)

*三洋電機 DSC等の大電流放電時で業界最高容量のニッケルマンガニチウム電池を開発、10月25日から発売へ。(8月8日付 電波、日刊工業&日経産業)

*環境省 同省のPRTTRのホームページに新たに「PRTTR対象化学物質データベース」を開設した。当該ページには対象の各物質の構造式、毒性、物性、関連法令等の情報が網羅されている。(8月8日付 朝日)

*東芝 現行機種に比べ吸い込み能力を50%強化したコードレスクリーナーを9月1日から発売する。電源には、新ニッケル水素電池が搭載されていて、使用時間は一回の充電で標準で40分、強使用で20分になっている。

(8月8日付 電波)

*YUASA 大坪社長、鉛電池を軸に燃料電池にも積極的に取り組むなどで生き残りを図る方針である事等を語る。

(8月9日付 日経産業)

*燃料電池実用化戦略研究会 燃料電池自動車と定置用燃料電池の実用化次期を2003年~2004年に、普及次期を2010年以降に設定した。尚、当該研究会は経済産業省が産学官のメンバーで組織した会である。

(8月9日付 日刊工業&日経)

*経済産業省 2000年のバーゼル法(特定有害廃棄物等の輸出入等の規制に関する法律)の施行状況を纏める。

(8月9日付 化学工業日報)

*ソニー 小型燃料電池の開発に成功、当該分野に参入する事を表明、今後は業界初の家電向け燃料電池の実用化に向け開発のピッチを上げる予定。

(8月10日付 朝日)

*三洋電機 業務用電動工具向けに開発したニカド電池「コバルトパワー」を採用した充電式のコードレスクリーナーの新製品を9月1日から発売。充電1回の連続使用時間は、標準モードで約30分、強力モードで約10分になっている。

(8月10日付 日刊工業&日経産業)

*電力中央研究所 電力貯蔵用リチウム二次電池の新試験法を開発し、正確な性能評価が可能になった旨を発表。

(8月10日付 日経)

*鐘淵化学 太陽電池事業で欧州展開を強化する旨を発表。尚、同社は、今春から薄膜ポリシリコンを積層した変換効率10%の物を投入中。

(8月10日付 化学工業日報)

*三徳(日本) ニッケル水素電池、リチウムイオン電池等、急成長中の二次電池の負極材と正極材のリサイクル事業に乗り出す。材料は、電池製造段階での未完成品を対象にしたもので、本事業は2~3年後に拡大が期待出来る予想中。

(8月10日付 化学工業日報)

*次世代携帯電話 音響・映像の機器大手である、日本ビクターとバイオニアが次世代携帯電話事業からの撤退する旨を発表。

(8月15日付 日経)

*東芝 現在コードレスクリーナー市場で半分近いシェアを確保している同社では、2003年度は、コードレス品が市場の半分(約300万台)を占めると予想中。

(8月14日付 電波)

*経済産業省 田辺リサイクル推進課長、今後の重点施策は「これまで作り上げたりサイクルシステムの更なる高度化と、環境ビジネスを作り立たせること」である事等を語る。

(8月14日付 化学工業日報)

*中国情報産業省 今年7月末時点での携帯電話加入者が1億2千60万人となり、米国を抜いて世界一位になった事を発表。尚、全人口に占める普及率は9.2%とまだ低い。

(8月17日付 日経)

*YUASA 産業用鉛蓄電池の中国からの輸入を本格化させ、来春を目処に低価格機種や量産品を中心に国内販売額の約25%を中国製品に切り替える旨を発表。

(8月17日付 日経)

*東芝 現行機種に比べ吸い込み能力を50%強化したコードレスクリーナーを9月1日から発売する。電源には、新ニッケル水素電池が搭載されていて、使用時間は一回の充電で標準で40分、強使用で20分になっている。

(8月8日付 電波)

*経済産業省 日本経済の牽引車の一つとして期待されているロボット産業を本格的に育成する為、開発費補助や関連法の整備などを柱とした支援制度「21世紀ロボットチャレンジ」を来年度から実施する方針を決める。

(8月18日付 電波)

*市販ニッケル水素電池 DSC、PDA等の大電流を必要とするIT商品の普及と、環境・コスト意識の高まりに起因して、市販ニッケル水素電池市場が急拡大して、2000年度は前年度比35%増(数量)になった模様。

(8月20日付 電波)

*松下電器産業、松下通信工業、NEC 第三世代の通信サービスに対応した携帯電話事業で3社が提携、テレビ電話などの動画処理に必要なソフトウェア開発や製品の相互OEM供給が検討される事になる。

(8月20日付 日経)

*東芝 2003年末までに約30~50億円を投資、リチウムイオン電池を増産しシェア18%を目指す。

(8月21日付 日経)

*日本電池&トヨタ 電圧が既存品比3倍の36ボルトを実現したHEV用の密閉型鉛蓄電池の開発に世界で初めて成功、量産を開始した。これにより高消費電力車の実用化が可能になる。

(8月22日付 日経産業、電波&日刊工業)

*産業構造審議会(経済産業省の諮問機関) ナノテクノロジー分野の評議報告書を纏める。尚、そのなかでは計測、分析、加工の各基盤技術分野の強化が必要である事が書かれている。

(8月22日付 日刊工業)

*三洋電機 シェアアップの為、普及タイプゾーンのシェーバーにも水洗いタイプを投入、下期は水洗いタイプを業界平均を大幅に上回る65%にまで高める予定。

(8月23日付 電波)

*国土交通省 2002年度の環境重点施策として、低公害車の開発・普及、廃自動車の再資源化の促進、等を決める。

(8月24日付 化学工業日報)

*ソニー DSC画像のプリンターのモバイルタイプを11月から発売する。本品の電源はAC駆動と単三形ニッケル水素電池の併用になっている、撮ったその場でのプリントが楽しめる事になる。

(8月27日付 電波)

*野村興産 乾電池から回収したマンガンをテレビのブラウン管部品のソフトフェライト原料に再利用する工程で、新設炉での再び焼を行い、フェライト品質の向上による売り上げ増のもうろみを開始。

(8月27日付 日経産業)

*松下電池工業 業界最高の高容量で大電流放電が可能な市販単三形ニッケル水素電池を開発、9月1日から発売する。容量はティカル1720mAh、ミニマム1650mAh。

(8月27日付 電波、日刊工業&化学工業日報)

*J-フォン 医療データーの送信、緊急時の状況報告に応用できるカメラ付携帯電話を開発、病院、官公庁等の需要を開拓を開始。

(8月28日付 日刊工業)

*大阪ガス&三洋電機 家庭用コゼネレーションシステムに用いる1キロワット級の固体高分子型燃料電池(PEFC)の共同研究で合意。

(8月28日付 日経)

*資源エネルギー庁 燃料電池の早期実用化に向けた「2005年までの技術開発戦略」で固体高分子型燃料電池技術開発と一体になった水素貯蔵技術、膜・電極などの要素技術の開発が特に重要と指摘。

(8月28日付 化学工業日報)

*三菱自動車&日本電池 試作EV車が一回の充電で410Kmの公道走行を達成した旨を発表。尚、電池はマンガン系リチウムイオン電池。

(8月29日付 日刊工業)

*三洋電機 半導体メモリーカードに音楽を記憶して楽しむ携帯型のメモリーフレーヤーを活用した教育システムを開発、今秋から録音サービスを開始。

(8月29日付 日経)

*三菱マテリアル ホビークラフト素材である純銀粘土を使った腕時計製作キット(約2時間で組み立て)を発売した。

(8月29日付 化学工業日報)

*DSC 2001年のDSC需要は、日本の500万台を含め世界で2000万台の需要が見込まれている。この為、各社共高品質化やネットワークへの対応等をセールスポイントに相次ぎ新製品を開発中。

(8月30日付 電波)

*松下電工 うぶ毛、まゆ毛を優しくカット出来るレディーシェーバーとヒータ式のまづけ用カーラーを9月1日から発売する。尚、電源はいずれも単4形アルカリ乾電池。

(8月30日付 電波)

*IDC(米国の調査会社) 世界の携帯電話端末の出荷台数は、本年は4億1千2百万台にとどまるとの調査結果を発表した。同調査では昨年からのこの物の出荷の伸び率は3%にとどまっている。

(8月29日付 電波)

*日立マクセル 簡型リチウムイオン電池の国内生産を中止、生産を自社の海外拠点に移転する旨を発表した。同社の二次電池事業の主体は、角型リチウムイオン電池に特化へ。

(8月30日付 日刊工業&日経)

*経済産業省 2002年度の概算要求概要を発表、環境問題対応についてはリサイクル施策に重点がおかれ、リサイクル技術の開発については二倍近く32億円を要求中。

(8月31日付 化学工業日報)

*松下電池工業 自動点灯・自働消灯のサイクルセンサーライトの新製品を10月1日から発売する。尚、電源は単二形乾電池二個仕様。

(8月31日付 電波)

*NEC&科学技術振興事業団 携帯電話等に使える小型燃料電池を開発した。ナノテクノロジーの新素材として注目されているカーボンナノチューブの仲間を用いる事等で携帯電話に用いた場合は20時間以上の連続通話が可能。

(日経、日刊工業、電波、日経産業&化学工業日報)

平成13年9月度の電池工業会活動概要

部会	9月度開催日	委員会・会議	主な審議、決定事項
特別会議その他	7日(金)	蓄電池設備整備資格者講習会	*北海道再講習
	14日(金)	蓄電池設備整備資格者講習会	*群馬県再講習
	14日～15日	平成13年度正賛合同会議(浜松)	*正会員、賛助会員が一堂に会し、工業会活動、講演(豊田泰光氏)及び懇親会
	21日(金)	蓄電池設備整備資格者講習会	*愛媛県再講習
	26日～28日	蓄電池設備整備資格者講習会	*大阪府本講習
	28日(金)	広報委員長会議	*今後の広報組織と運営について協議
委員会合	4日(火)	バッテリー賞WG	*本年度の予定、招待者のリストアップ、費用の概算、広報原稿、バックパネル等下打合せ、今後の日程
	20日(木)	広報総合委員会	*でんちフェスタ、バッテリー賞等イベント活動の準備
二次電池部会	7日(金)	技術委員会用語分科会	*SBA用語規格の審議
	11日(火)	小形鉛分科会	*JIS、SBA、IEC規格検討
	12日(水)	小形シール鉛分科会	*JIS規格改訂案の検討
	13日(木)	据置アルカリ分科会	*JIS規格改訂案の検討
	19日(水)	据置鉛分科会	*JIS、SBA規格改訂案の検討
	20日(木)	電気車鉛分科会	*JIS、SBA規格改訂案の検討
	20日(木)	リサイクル委員会	*新リサイクルスキームの詰め
	21日(金)	PL委員会	*国土交通省での定期報告、破裂について
	21日(金)	市販小委員会	*リサイクル、L型端子について
	21日(金)	資材小委員会	*再生鉛利用率について
	25日(火)	技術サービス小委員会	*硫酸情報提示内容等について
	27日(木)	自動車鉛分科会	*JIS改正案の検討
	28日(金)	EV用電池分科会	*規格原案の検討
	29日(土)	EV用電池合同委員会	*規格原案の検討
小形二次電池部会	5日(水)	再資源化委員会・アルカリ分科会	*大口ユーザールートの対応、回収拠点設置の問題点など検討
	6日(木)	小形二次電池部会	*関係委員会からの報告、再資源化積立預り金返却の承認
	7日(金)	9月度国連対応委員会	*カナダIATAセミナー準備の確認、ガイドブックの第2次案の詰め等
	10日(月)	リチウム二次分科会	*IEC規格、用語の審議
	11日(火)	国土交通省との会議	*10月ICAO会議に対する日本提案の理由付けの検討
	12日(水)	新種電池研究会	*新聞、雑誌等の情報に基づくトピックスの紹介と質疑応答
	18日(火)	経済産業省・国際部門への報告会	*中国電池業界の動向及び韓国電池業界の状況を報告
	18日(火)	工場環境委員会	*電池のMSDSの対応、経済産業省LCAプロジェクトの対応など
	19日(水)	臨時国連対応WG会議	*米国・カナダ出張中止に伴う今後の方針検討
	19日(水)	業務委員会	*小形二次電池の8月度出荷実績の確認及び検討
	20日(木)	小形二次電池・PL委員会	*表示ガイドラインのチェックリストの最終版検討
	20日(木)	再資源化委員会	*産構審ガイドラインの対応、資源有効利用促進法Q&Aの検討
	25日(火)	日機輸・EUセミナー	*EUの各種指令案等の法的決定手順やしくみに関する説明会
	26日(水)	日本機械輸出組合との会議	*中国電池業界の動向及び韓国電池業界の状況を報告
	27日(木)	再資源化委員会・リチウム分科会	*再資源化マニュアルの検討
一次電池部会	11日(火)	循環技術委員会工場見学会	*三池製錬(株)でのダスト製錬炉による再資源化状況を見学
	17日(月)	器具委員会	*技術、広報、業務の各WGの今後の対応課題の確認等
	19日(水)	業務委員会	*下期スケジュールの確認
	26日(水)	広報委員会	*啓発パネルと10月以降の啓蒙活動の内容と分担確定
	26日(水)	広報委員会パンフWG	*啓発資料" We love Denchi" 校正版の完成と配布
	28日(金)	PL委員会	*テレビ放映内容の確認とこれらの応用法等の討議

経済産業省からのお願い

「調査票提出促進運動」の実施について

当省で実施しております生産動態統計調査、商業動態統計調査等につきましては、常日頃より御協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

皆様より提出された調査票は、当部において集計し、加工、分析の上公表され、商鉱工業における企業経営、国・地方公共団体の行政上の施策の基礎資料として、さらには諸研究のための貴重な基礎データとして広く利用されております。

当部におきましては、「統計の日」(10月18日)を中心として、毎年「調査票提出促進運動」を実施しております。この運動は、調査対象の企業、事業所に対し調査票の提出について今後とも御協力をお願いするとともに、業界団体、組合等に対する協力依頼、

広報誌等によるPRの実施などを行なうものです。

当部といたしましても、調査内容の見直し、調査結果の早期公表等の努力を続けておりますが、今後ともより良い統計を作成するためには、皆様の御協力により「正確な」調査票を「所定の期日」までに提出していただくことが何に増して重要であります。

引き続き皆様のご理解を賜り、調査票の提出に御協力いただきますようお願い申し上げます。

なお、平成12年よりインターネット等を利用したオンラインでの調査票の提出をいただいております。オンラインでの提出の詳細については、経済産業省のホームページ(<http://www.meti.go.jp>)で「統計⇒新世代統計システム」として紹介しておりますので、是非御覧の上、御協力を賜りますようお願い申し上げます。

..... 新製品ニュース

世界初 マイルドハイブリット車用36V密閉型(制御弁式) 鉛電池を開発 -トヨタ自動車(株)と共同で



日本電池株式会社(社長 田中千秋)は、このたびトヨタ自動車(株)と共同で、マイルドハイブリット車用36V密閉型(制御弁式)鉛電池を世界に先駆けて開発し、量産を開始しました。

21世紀における車会社は、石油資源の減少や大気汚染、地球温暖化などの環境問題という大きな課題を抱えています。一方で、自動車はますます快適性が求められ、これまでの14V系電源(電池電圧:12V)システムでは今後の車両消費電力の増加に対応しきれなくなっています。

今回、ガソリンエンジンと小型モーターとを組み合わせたマイルドハイブリット車用に開発した鉛電池は、電圧が36Vと従来(12V)の3倍であるだけでなく、従来の自動車用鉛電池とは異なる役割を担っています。

すなわち、アイドリングストップ中のエアコンなどへの電力供給、発進時の電気モーターによる駆動とエンジン始動、さらに車両減速時の回生充電(エネルギー回収)などのエンジン負荷を軽減して燃費改善や排気ガスの減少に貢献しなければなりません。このため、同電池開発にあたっては、パワーとエネルギーの両性能をあわせもち、頻繁な充放電に耐え、かつ苛酷な使用環境においても性能を発揮できるように、当社のすべての鉛電池技術を投入して、新しい評価試験パターンのもとで改良・開発を行いました。正極板(活物質、格子合金)やセパレータなどの構成部材の改良とともに、負極板についても従来とは異なる劣化モードに対応するため、充電受入性の良い新処方活物質を開発しました。製造技術関係では、36V電池専用の新設備を開発して高精度、高品質を実現しました。

[特長]

- 1.高信頼性(超高密度正極活物質、耐食性格子合金、負極新処方活物質や高圧迫型長寿命セパレータなどの採用により、厳しい使用条件に対する高信頼性を達成)
- 2.高出力(薄型極板、電池構成最適化により従来品比2倍)
- 3.メンテナンスフリー(密閉タイプ・補水不要)

新製品ニュース

高性能ニッケル水素電池"メタハイ1700シリーズ"を発売 業界最高水準の高容量を実現。デジタルカメラなどに好適

松下電池工業(株)(社長 安田幸伸)は、業界最高水準の高容量と、大電流パワーを実現したニッケル水素電池"メタハイ1700シリーズ"を9月1日より従来と同価格で発売します。

本製品は、デジタルカメラやポータブルオーディオ機器など大電流を必要とする機器の電源として繰り返し使用ができ、とても経済的な電池です。当社は、98年3月よりニッケル水素電池の市販化を始めましたが、その後、高容量・ハイパワー化に取り組み、今回、新材料処方開発および構造改良などをおこなうことにより、電気容量(min.)1650mAhという業界最高水準の高容量化を実現しました。

品名	ニッケル水素電池 単3形	
愛称	メタハイ1700シリーズ	
品番	HR-3GPS/4B(4本入り)	HHR-3GPS/2B(2本入り)



[特長]

1. 業界最高水準の高容量min.1650mAh (Typ.1720mAh)を実現…当社従来品(2000年版HHR-3GPS)比 約6.5%増
2. 1000~1500mA放電が可能な大電流タイプ…デジタルカメラの撮影枚数で約18%アップ(2000年版比)
3. オールPET仕様のパッケージで環境にもやさしい
4. ワンタッチ開封のブリスター・パックを採用

[用途]

1. デジタルカメラなどの大電流機器
2. ポータブルオーディオ、携帯ゲーム機など電池へのヘビーユーザー
3. 毎日繰り返し使う機器(ヘッドホンステレオ、ポータブルMDプレーヤー、ポータブルCDプレーヤーなど)

アルカリ乾電池「COLOR CLUB」新発売 女性・ヤング層をターゲットとした4色カラーバリエーション

日立マクセル株式会社(社長 赤井紀男)は、女性層・ヤング層をメインターゲットとした4色カラーバリエーションのアルカリ乾電池「COLOR CLUB」シリーズを10月25日から新発売致します。

昨今、家電製品、生活雑貨用品、衣料品など様々な分野でカラーコンセプト商品が女性層・ヤング層を中心に人気を呼んでいます。当社で実施したアルカリ乾電池のデザイン調査(10~39才の男性・女性各100名、合計200名を調査)でも、約63%の方がカラーバリエーション電池を購入希望しました。特にメインターゲットに想定している10~20才代の女性からは約80%もの圧倒的な支持を頂きました。マクセルではこの様なユーザーニーズに対応し、単3形は「ブルー(ドルフィン)」「グリーン(バーム)」「オレンジ(マンゴー)」「ピンク(ハイビスカス)」、単4形は「ブルー(ファルコン)」デザインのカラー・アルカリ乾電池「COLOR CLUB」シリーズ(合計6アイテム)を商品化致します。

カラフルで「楽園」をイメージしたファッショナブルなデザインが、アルカリ乾電池の「選ぶ楽しさ」「使う楽しさ」を広げます。

[特長]

- 1.好みで選べる4色カラーバリエーション
- 2.カラフル感をいかした「楽園」イメージのファッショナブルなデザイン
- 3.デジカメなど大電流機器用途に強い高性能アルカリパワー
- 4.非塩ビ材(ポリプロピレン)を使用した「環境対応パッケージ」

[発売品種、発売日]

- 〈単3形〉LR6(CC)BL.4PP(ブルー)、LR6(CC)GN.4PP(グリーン)、
LR6(CC)OR.4PP(オレンジ)、LR6(CC)PK.4PP(ピンク)、
LR6(CC)MIX.4PP(4色ミックス)
〈単4形〉LR03(CC)BL.4PP(ブルー)
個装単位:4本入り、発売日:10月25日



7月度電池および器具販売実績(機械統計)

(平成13年7月)

単位:数量=千個、金額=百万円

	單 月				1月～当月累計			
	数 量	金 額	数量 前年比	金額 前年比	数 量	金 額	数量 前年比	金額 前年比
電池・器具総合計	536,189	60,974	86%	84%	3,549,527	410,193	85%	84%
全電池合計	535,030	59,260	86%	84%	3,543,185	399,226	85%	84%
一次電池計	391,316	14,552	91%	89%	2,589,209	91,204	90%	85%
マンガン乾電池計	84,052	1,981	79%	86%	650,492	13,465	84%	78%
单一	10,560	577	108%	104%	69,336	3,659	80%	77%
単二	6,643	253	93%	90%	42,013	1,553	66%	66%
単三	48,098	806	90%	87%	358,561	5,659	92%	85%
その他	18,751	345	51%	64%	180,582	2,594	78%	73%
アルカリ乾電池計	130,959	7,263	92%	92%	774,667	42,650	89%	89%
単三	79,733	3,902	95%	96%	499,296	24,481	97%	99%
単四	33,023	1,751	81%	79%	174,003	9,212	75%	73%
その他	18,203	1,610	100%	99%	101,368	8,957	86%	86%
酸化銀電池	89,411	1,030	113%	111%	567,285	6,339	102%	92%
リチウム電池	83,556	4,109	86%	81%	569,280	27,503	86%	80%
その他の乾電池	3,338	169	78%	74%	27,485	1,247	101%	93%
二次電池計	143,714	44,708	75%	82%	953,976	308,022	74%	84%
鉛電池計	3,743	12,480	92%	101%	25,118	84,412	93%	100%
自動車用	2,169	7,428	100%	101%	13,078	44,098	99%	97%
二輪用	394	770	84%	89%	3,026	5,512	91%	89%
小形シール	952	998	78%	79%	7,260	7,438	80%	83%
その他	228	3,284	109%	111%	1,754	27,364	117%	116%
アルカリ電池計	101,937	11,595	70%	69%	677,794	81,183	68%	70%
完全密閉式	54,048	5,556	96%	89%	309,048	33,879	85%	82%
ニッケル水素	47,875	5,727	53%	56%	368,641	45,045	58%	62%
その他のアルカリ電池	14	312	100%	108%	105	2,259	80%	81%
リチウムイオン電池	38,034	20,633	94%	81%	251,064	142,427	94%	85%
器具計	1,159	1,714	93%	108%	6,342	10,967	80%	100%
携帯電灯	725	707	112%	119%	3,432	3,510	71%	78%
電池器具	434	1,007	72%	102%	2,910	7,457	96%	115%

7月度電池輸出入実績(財務省貿易統計)

(平成13年7月)

単位:数量=千個、金額=百万円(少数以下四捨五入の為、合計が合わないことがあります)

	單 月				1月～当月累計			
	数 量	金 額	数量 前年比	金額 前年比	数 量	金 額	数量 前年比	金額 前年比
全電池合計(輸 出)	246,635	27,503	71%	70%	1,858,684	204,658	78%	76%
一次電池計	136,163	3,133	75%	74%	1,111,962	23,582	87%	84%
マンガン	40,737	403	82%	103%	336,188	2,753	92%	89%
アルカリ	20,140	408	65%	74%	159,149	2,782	75%	76%
酸化銀	26,879	357	78%	85%	239,540	3,011	101%	100%
リチウム	46,895	1,920	74%	70%	358,548	14,496	82%	83%
空気亜鉛	1,264	26	56%	67%	12,308	228	100%	99%
他の一次	246	19	65%	28%	6,230	313	90%	51%
二次電池計	110,473	24,370	66%	70%	746,722	181,076	67%	76%
鉛蓄電池	517	891	72%	90%	4,068	6,607	76%	88%
ニカド	44,556	3,775	93%	87%	241,523	22,151	81%	76%
ニッケル鉄	2	2	34%	384%	222	28	24%	33%
ニッケル水素	33,596	3,619	45%	43%	275,390	33,778	53%	56%
リチウムイオン	24,472	13,975	82%	74%	179,633	104,225	89%	82%
その他の二次	7,330	2,108	47%	84%	45,884	14,288	53%	89%
全電池合計(輸 入)	32,220	3,534	88%	108%	258,654	25,072	109%	107%
一次電池計	29,692	1,345	101%	166%	230,271	7,448	118%	144%
マンガン	8,159	113	100%	97%	67,502	964	107%	109%
アルカリ	19,349	426	99%	97%	148,374	3,079	122%	114%
酸化銀	425	9	528%	225%	2,182	54	604%	344%
リチウム	819	68	66%	83%	6,421	696	82%	109%
空気亜鉛	374	14	182%	191%	1,873	81	88%	96%
他の一次	566	717	1277%	440%	3,919	2,574	445%	304%
二次電池計	2,528	2,189	36%	89%	28,383	17,623	69%	96%
鉛蓄電池	424	1,290	98%	110%	3,188	8,577	94%	111%
ニカド	1,072	348	66%	69%	7,718	2,794	85%	81%
ニッケル鉄	0	1	9%	447%	8	21	728%	359%
ニッケル水素	—	—	—	—	—	—	—	—
リチウムイオン	—	—	—	—	—	—	—	—
その他の二次	1,032	551	21%	71%	17,469	6,231	61%	87%